

令和元年度 学校経営計画書

石川県立金沢泉丘高等学校（全日制課程）

学校長 宮本 雅春

1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること

情操を豊かにし、自らの品位を高め、他者の人格を重んずること

正義を愛し、誠実にして、社会から信頼されること

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んでいる。「確かな学力」を身につけさせるとともに、次世代を担う心身共に健全で品位と良識あふれるリーダーの育成をめざし、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。
- ② 大学進学に関して、県内有数の進学校としての実績を収めている。世界を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成15年度にSSHの研究開発の指定を受け、さらに平成28年度に四期目（5年間）の指定を引き続き受け、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成をめざしている。
- ④ 平成27年度にSGHの指定を受け、グローバルな社会課題に関し、探究型学習を通して多面的に考え、多角的に行動する力を備えた、国際舞台上で活躍する人材の育成をめざしている。
- ⑤ 平成24年度に「いしかわニュースーパーハイスクール」の指定を受け、人文科学、自然科学の両分野における幅広い教養を身につけ総合力を備えた、国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 「確かな学力」の育成
進学実績の向上をめざし、確かな知識に基づいた深い学びにつながる質の高い教科指導を、ICTの活用や主体的・協働的な学習方法を取り入れながら、組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の教育環境・設備を整え、次世代を担うリーダーに必要な人格の陶冶をめざす。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 指導力の向上と組織の活性化
より効果的な教育活動を展開するために、研究授業や職員研修会をとおして教職員の指導力を高める。また、組織運営の合理化・効率化を推し進めることにより、教職員がワーク・ライフ・バランスを維持し、活力と創造力を十分に発揮することのできる職場環境を形成する。
- ② 開かれた学校づくり
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

3 今年度の重点目標

創立126年目を迎える歴史と伝統を踏まえ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。
・一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。
- (2) 探究活動の進化・発展及びその記録について研究を進める。
- (3) 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。
- (4) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
・保護者懇談会、授業公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。
- (5) 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。
・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。

令和元年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
<p>1 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。</p> <p>・一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。</p>	<p>① 各教科での研究授業や自教科・他教科の授業見学などを通して、また生徒による授業評価なども参考にしながら、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。</p>	<p>教務課</p>	<p>【満足度指標】 生徒の授業に対する満足度が高まる。</p>	<p>「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて、その値 α を算出する。</p> <p>①「よくあてはまる」 ②「ややあてはまる」 ③「あまりあてはまらない」 ④「まったくあてはまらない」</p> <p>α の値が A 3.55以上 B 3.50以上 C 3.45以上 D 3.45未満</p> <p>※ 4段階評価の基準 ・よくあてはまる … 4点 ・ややあてはまる … 3点 ・あまりあてはまらない … 2点 ・全くあてはまらない … 1点</p>	<p>【判定】 A 7月実施の生徒による授業評価 3.59</p>	<p>・満足度指標は、昨年度同期と比較すると3.53から3.59に大きく上昇した。他の質問項目から、予習・復習がしっかりできている割合が増加しているという結果が出ており、これが授業の充実につながったと考えられる。</p> <p>・さらに満足度指数を上昇させるため、主体的・協働的で、深い学びが行われる授業にしていきたい。そのために、研究授業や生徒による記述式のアンケートなども参考にして、教員間の教材の共有、授業の振り返り、ICT機器の効果的な活用、適切な課題の提示について、教科内で工夫してすすめていきたい。</p>
	<p>② 基礎学力の充実を図りながら、適切な模試や大学入試の分析の提供、学部別の説明会等を実施するとともに、難関大学を志望する生徒の意欲をさらに高める取組を、他室と連携しながら実施する。</p> <p>特に、3年生にはきめの細かい指導ができるよう、入試情報や模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、集団として受験に臨む意識を高める取り組みを行う。</p> <p>2年生には、高い志を持つとともに新テストにしっかり対応できるような集団作りを行う。</p> <p>SSH室SGH室等と連携した取組を工夫して行う。</p>	<p>進路指導課</p>	<p>【成果指標】 受験集団としての意識が高まり、東京大学・京都大学・国公立大学医学科の合格者が増加する。</p>	<p>東京大学・京都大学および国公立大学医学科合格者の合計人数(重複可)が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満</p>	<p>【判定】 未定</p>	<p>・東大・京大・医学科説明会を6月、10月に行い、さらに難関大別模試（実戦、オープン模試等）を夏と秋に受験させることにより、難関大学志望者の集団作りと意識付けを行うとともに、意欲を高めることができた。</p> <p>・現在、東大志望者33名（文14、理19）、京大志望者53名（文25、理28）、医学科志望者36名で、例年の同時期と大きく変わりはない。今後は、この志望を下げさせず、志望に見合った学力をつけさせることが重要課題である。</p>

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
1 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。 ・一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。	③ ホーム担任は担当生徒に対し、年間6回以上の個別面接指導を実施する。また、学習時間調査の結果も踏まえ、家庭学習の定着を図る。	1 学年	【満足度指標】 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上する。	一年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[判定] 未定	・7月の「生徒による授業評価」において、項目①「充実度」が3.59で、95%以上の生徒が、授業が充実していると回答しているため、評価はAである。さらに充実するように努めていきたい。
	④ ホーム担任は、年間5回以上の個別面接指導を通して、高い進路志望の確立を図る。また、学習時間調査の結果も踏まえ家庭学習の定着を図る。	2 学年	【満足度指標】 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上する。	一年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[判定] 未定	・7月の「生徒による授業評価」では、項目①「充実度」が3.54であり、93.3%の生徒が、授業が充実していると回答しているため、評価はBとなる。 ・定期考査前・総体後・修学旅行後などに、担任は面談を行い、個々の生徒の状況に応じた指導を行っている。
	⑤ 授業内容をより充実させるとともに、放課後補習および個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開していく。	3 学年	【成果指標】 個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現する。	難関10大学及び国公立大学医学部医学科の合格者数が、 A 100名以上 B 90名以上 C 80名以上 D 80名未満	[判定] 未定	・入試結果により判定する。 ・学年と教科、進路指導課が連携しながら、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開している。授業、放課後補習、個人添削等を、分量、レベル、頻度等の面から工夫して行っている。また、個人面談や学年集会を効果的に実施し、モチベーションアップやメンタル面へのサポートやケアを行っている。
2 探究活動の進化・発展及びその記録について研究を進める。	① カリキュラムの中の科学的な課題研究活動を充実させることで、生徒の探究力・思考力・行動力の向上を図る。また、探究活動の評価や成果を蓄積し、個人が振り返りできるファイルの作成に取り組む。さらに、普通科普通コース理型クラスの課題研究活動については、より探究活動を意識した取組を実践する。	SSH 推進室	【満足度指標】 SSHの取組で探究力・思考力・行動力が身につく。	「『AI課題研究Ⅰ』（1年）『AI課題研究Ⅱ』『SS課題研究Ⅰ』（2年）『AI課題研究Ⅲ』『SS課題研究Ⅱ』（3年）は、「探究力、思考力、行動力を高める機会になっている」の項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答するSSH主対象生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・12月にアンケート調査を実施予定
	② 大学入試制度改革や学習指導要領改訂などを視野に、カリキュラムマネジメントの視点から、課題研究を中心とした探究的学習のプログラムの改善を図り、持続可能かつ発展的な探究型学習の指導方法を確立する。また、探究活動の評価方法や成果の蓄積などポートフォリオに対する研究も進める。	SGH 推進室	【満足度指標】 SGHの取り組みで思考力や表現力、他人と協働する態度が育成できる。	「SG探究基礎」（1年）や「SG探究」「NS探究α」（2年）「SG探究活用」「NS探究β」（3年）は、自らの考えを隠ることなく論理的に表現し、合意形成をする能力を高める機会となっているという項目で、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・SGH指定5年目の最終年度を迎え、1年次から3年次までのプログラムは完成しており、その改善に努めている。ポストSGHを視野に、持続可能な取組になるよう様々な環境整備を行っているが、その一環として、課題研究のテキストも完成し、教員間での共通理解をはかりながらプログラムを展開している。 ・12月にアンケート調査を実施予定

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
3 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。	① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、グローバル人材となる資質を育成する。	総務課	【満足度指標】 講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。	「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・12月にアンケート調査を実施予定
	② 基本的な生活習慣の確立を図ることを目的に、挨拶の指導を徹底する。 ・場面に応じた、元気で明るくさわやかな挨拶 ・授業の開始、終了の挨拶 ・職員室等の入室マナー	生徒指導課	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなる。	場面に応じた元気で明るくさわやかな挨拶ができていると答えた生徒が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	[判定] 未定	・昨年度からの比較でもかなり良くなってきている。継続的かつ組織的な取り組みの成果であると考え。さらに良好な挨拶から、場面に相応しい所作につながっていくよう指導していきたい。 ・12月にアンケート調査を実施予定。
	③ 「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進するために未然防止の取り組みを行う。	生徒指導課	【成果指標】 互いに認め合い助け合う仲間づくりができる生徒が多くなる。	他人の人格を重んじ、尊重する態度で接していると答えた生徒が、 A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	[判定] 未定	・12月にアンケート調査を実施予定
	④ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。 部活動と勉学の両立（文武両道・文武不岐）をめざす。	生徒指導課	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、上位大会に進出する部が増える。	県予選を突破し、ブロック大会以上の大会・行事等に出場した部活動が、 A 20以上 B 15以上 C 12以上 D 12未満	[判定] B 上半期（4月～9月）は16の部活動が出場した。	・運動部、文化部ともに活発に活動を続け、県総体・総文、北信越大会、全国大会（インターハイなど）においても優れた成績を収めた。 ・後期（新人大会等）の結果で、上位大会に出場する部の数が増える可能性あり。
	⑤ 環境ISO活動を意識して、環境保全に配慮した生活となるようにする。 ・ゴミの分別 ・学校周辺のゴミ拾い ・節水・節電	保健環境課	【満足度指標】 環境保全を意識して生活し、実践している。	校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・12月にアンケート調査を実施予定
	⑥ 読書と学習環境の整備に努め、学校図書館としての機能と魅力を高める。 委員会活動、購入図書の精選、広報活動、教科や調べ学習の場の提供などに努め、貸し出し冊数や入館者数の増加を図る。	図書課	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。	1年間の図書の貸し出し冊数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	[判定] 未定 9月末現在で2,632冊の貸出があった。昨年同期に比べ5%増加した。	・貸出冊数は昨年より150冊増加した。1年生ではオリエンテーション後の貸出数を2冊から3冊に増やしたことや授業での利用が増えた反面、読書感想文課題や調べ学習での貸出が減少した。2年生は読書量が少なく感想文課題での貸出も減少した。また入館者数は14%減で、貸出冊数と同様の要因と考えられる。後期は読書会、書庫探検、読書週間、おはなし会などを通じて減少に歯止めをかけたい。 ・貸し出し本の内容は新書やハードカバーの割合が多く、教養や専門分野に興味のある本校生徒の特色が表われている。
	⑦ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるように支援する。	教育相談室	【満足度指標】 気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようにする。	相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・12月にアンケート調査を実施予定

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
4 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・保護者懇談会、授業公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。	① 保護者懇談会、PTA 活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりにめざす。	総務課	【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増える。	今年度の「PTA 総会」、「いしかわ教育ウィーク」・「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校数が合わせて、 A 1200 人以上 B 1000 人以上 C 800 人以上 D 800 人未満	[判定] 未定	・「PTA 総会」は787名（家族含むと907名）、出席率は65.5%であり、保護者の本校への期待や関心は高い。今後の講演会や教育ウィークにも多くの保護者や地域住民に参加していただきたい。
	② 特別講義を一般公開することや、理数科1、2年生、SSH委員、SS部及び科学系の部所属の生徒が「金沢泉丘サイエンスグランプリ」、「創立記念祭における理科教室」等、自ら企画・運営・参加する機会を増やし、内容を充実したもので、科学教育の面から地域に貢献する。	SSH推進室	【満足度指標】 SSHの取組を地域に還元できる。	「理科教室や金沢泉丘サイエンスグランプリに参加して、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」と回答する理科教室等の参加者の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・理科教室について、参加して「大変良かった」と回答した参加者の割合が65.6%であった。 ・理科教室は例年通り、企画・準備・運営を全て生徒が行った。外部参加者からの評価も、来場者のほぼ全員（95%以上）が、高校生が指導する取組を「良いと思う」と回答しており、生徒の主体性、コミュニケーション能力の向上につながっている。 ・今後実施予定の金沢泉丘サイエンスグランプリの参加者にもアンケートを実施する予定。
	③ 校内ネットワーク・ICT機器の利用環境の保守・整備に努め、校務の効率化と教育活動への活用を支援するとともに、情報資産管理システムの適正な運用を図る。	教務課	【努力指標】 生徒・教職員のコンピュータ・ネットワーク利用環境が整備され、効率的利用が高まる。	教員に対するアンケートにおいて、「校内LANの整備やコンピュータ・視聴覚機器の利用環境の整備によって校務の効率化と教育活動の質の向上が図られている。」という項目のよくあてはまるとややあてはまるを合わせた割合が、 A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	[判定] 未定	・SAMシステム運用により各種台帳が整備され、第1回棚卸によるハードウェア、ライセンス媒体の確認作業も終了した。 ・引き続きコンピュータ・ネットワーク利用環境の整備に努め、教職員の活動の支援を進めたい。 ・12月に教員アンケート調査を実施予定
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、保護者に学校の様子を理解していただく機会を増やし、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1学年 2学年 3学年	【満足度指標】 学校からのたより・通信等とおして、保護者に学校の様子がよくわかる。	「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・上半期に各学年で「学年だより」は4～6回、「進路だより」は6回発行している。月別行事日程が分かるよう月刊にして、生徒や保護者に適切な時期に有益な情報が届くよう努めている。 ・12月の保護者懇談の際にアンケート調査を実施する予定。
5 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。 ・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。	① 業務の見直し、密度の濃い会議運営など組織運営の効率化、職場環境の改善、教職員の意識改革、時間管理の工夫等を進めることにより、教職員のワーク・ライフ・バランスをとり、教育活動の質の向上を図る。	管理職	【満足度指標】 気力、知力、体力の面から、一層効果的な教育活動を展開できていると感じている教員の割合が高い。	ワーク・ライフ・バランスをとることにより、気力、知力、体力が充実し、一層効果的な教育活動を展開できていると回答する教員の割合が、 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	[判定] 未定	・職員の勤務時間調査の実施や、月一度の定時退校日、部活動休養日、夏季休業中の学校閉庁日の設定などとおして、限られた時間の中で業務効率の改善や、ワーク・ライフ・バランスを取ることに意識の向上を図っている。 ・12月に教員アンケート調査を実施予定